

## (9) 四国



四国地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

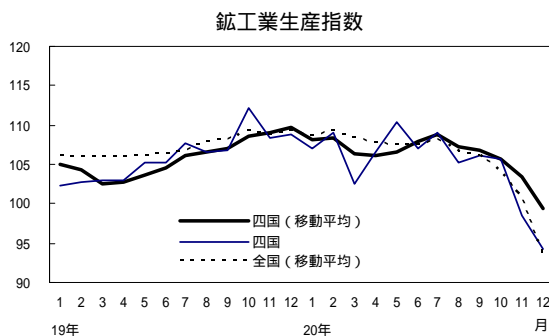
## 前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年11月）	今回（平成21年2月）	
景況判断	弱含み	悪化	
鉱工業生産	緩やかに減少	大幅に減少	
個人消費	弱含み	弱い動き	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	弱含み	悪化しつつある	

## 1. 生産及び企業動向

## (1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

化学は、国内外の需要減退によりナイロン原料、石油原料などの有機化合物が減少していることから、全体でも大幅に減少している。電気機械は、国内外の需要減退により自動車、電子部品向けの計数半導体集積回路、照明やカーライト向けの光電変換素子（LED）などが減少していることから、全体でも大幅に減少している。食料品は、肉製品などに動きがみられたものの、栄養補助食品や清涼飲料水が減少したことから、全体でも減少している。パルプ・紙は、新聞・広告需要の減退を受け、新聞巻取紙や塗工紙などを中心に減少している。一般機械は、国内向けの製造機械や建設用クレーンに動きがみられたものの、自動車向けの軸受などが減少したことから、全体でも減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。  
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

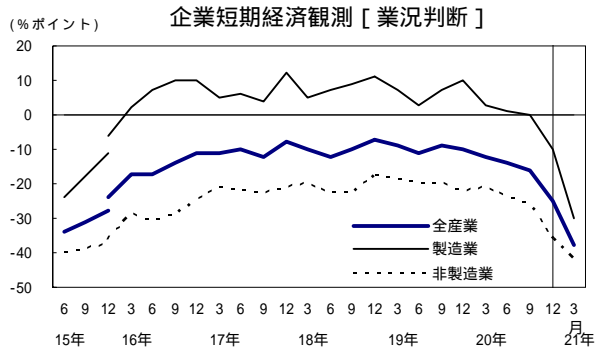
## 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.1	6.5	14.4	17.6	16.7
電気機械	15.4	5.9	10.5	17.1	41.6
食料品	13.6	1.8	6.6	3.8	7.4
パルプ・紙	11.8	0.7	9.9	8.7	2.0
一般機械	8.9	9.8	3.5	11.7	33.0
鉱工業	100.0	1.1	6.8	7.6	10.0

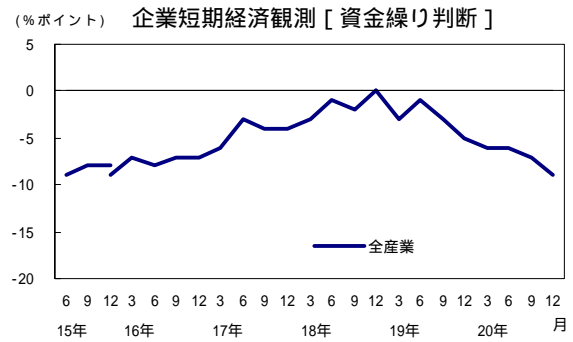
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

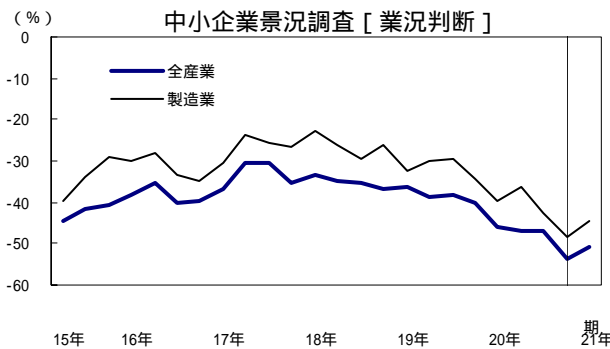
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

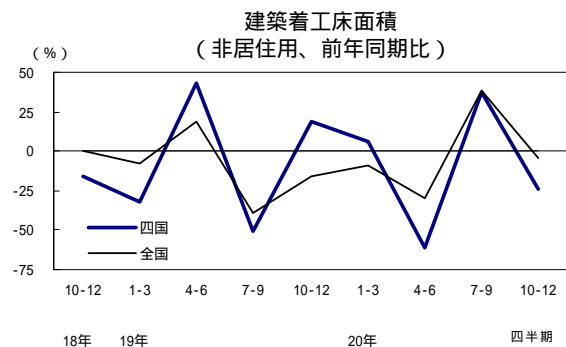
「製紙業や自動車関連では、操業停止や出荷調整を継続実施している。また、輸出関連についても円高により輸出数量が減少している(輸送業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.1	15.5 [ 18.2 ]
製造業	23.2	18.7 [ 25.5 ]
非製造業	7.8	11.2 [ 8.4 ]

(備考)[ ]は前回(9月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は弱い動きとなっている。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、物産展などの催事により飲食料品は好調だったものの、貴金属品などの高額商品や秋冬物の衣料品などが低調であったことから、前年を下回った。11月は、催事や歳暮などの早期受注により飲食料品は好調だったものの、高額商品や冬物衣料品が低調であったことから、前年を下回った。12月は、クリスマスケーキやおせちなどに動きがみられたものの、前月の歳暮早期受注の反動などにより飲食料品が振るわなかったことに加え、引き続き冬物衣料品が低調であったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の1月の売上高は前年同月比で9.7%減となっている。

スーパーは、肉食志向が強まる中、プライベートブランド商品や12月のクリスマスケーキ、おせちなどが好調だった飲食料品や、鍋などの調理用品に動きのあった家庭用品は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品の買い控えに加え、相次ぐ新規大型店の出店の影響もあり、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

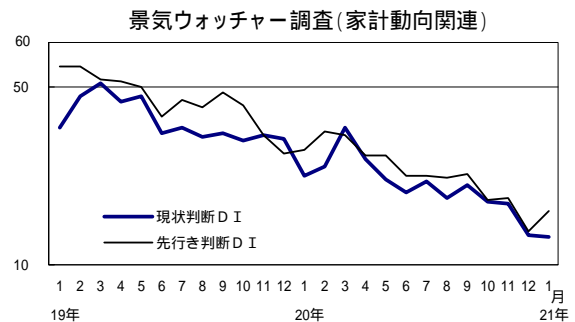
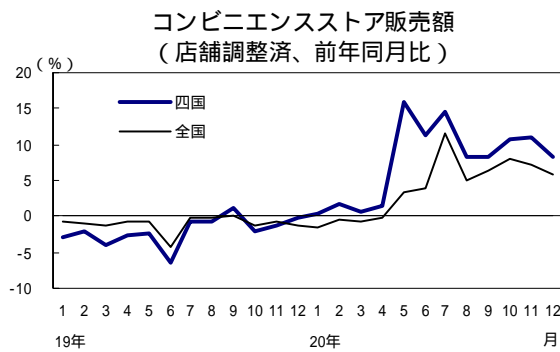
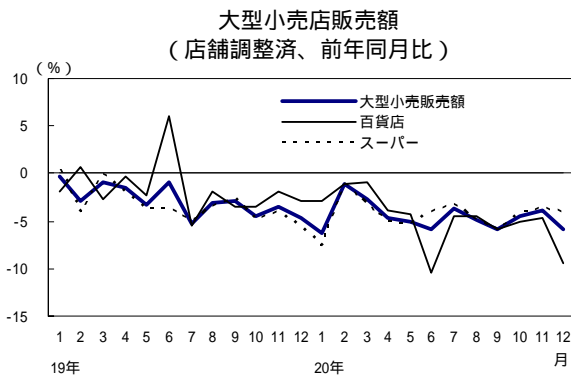
「大企業の赤字決算、従業員の解雇等の報道が続き、新車への乗り換えを予定していた人も二の足を踏んでいる(乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.5	5.2	4.7	4.4
百貨店	1.8	6.2	4.9	6.7
スーパー	4.3	4.8	4.6	3.4
コンビニ	0.9	9.6	10.3	9.9
景気ウォッチャー	34.3	29.7	27.3	21.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

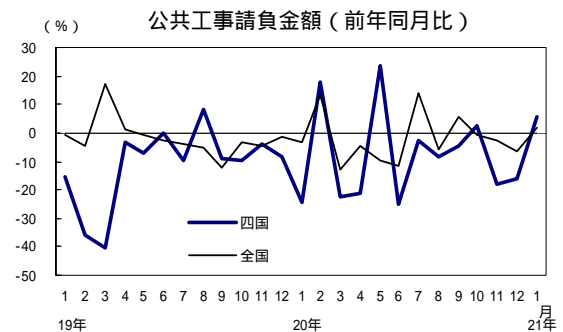
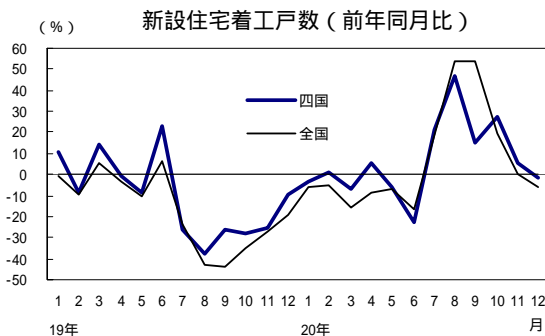
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に増加している。

### (3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

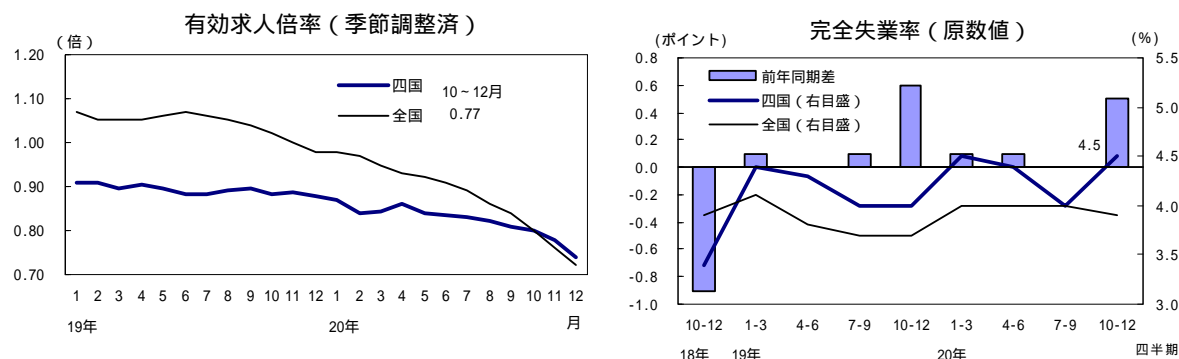


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

「県内大手企業においても人員計画を見直す傾向があり、正社員・派遣社員の人員整理を計画している企業がある(民間職業紹介機関)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

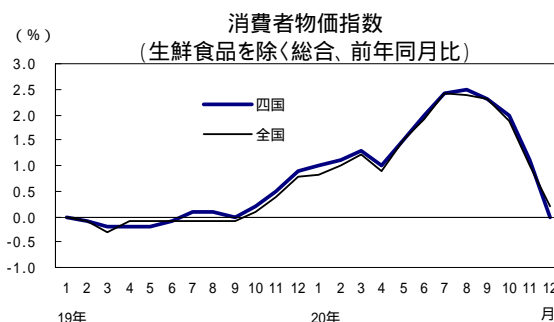
(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

1月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	83	101	123	104	46
(前年比)	5.1	4.7	19.4	13.0	48.4
負債総額	252	345	375	188	437
(前年比)	78.8	23.8	22.3	4.5	450.4



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・地元大手のマンション業者が今月倒産した。地元の建設下請業者の間では、次はどこが危ないといった噂が飛び交い、不安感を助長している(建設業)

<先行き>

・急激に得意先から広告費削減依頼が増えており、特に来期4月以降は新聞・テレビ広告等のマスメディアレギュラー契約の削減等見直し計画が増えてきている(広告代理店)

